

「情報をつかんで生き残れ！今日からできる地図&twitterで減災術」講座

【ネット情報使いこなし講座】活動記録

市民・NPOがつくる男女共同参画事業（男女共同参画センター横浜北／地域出前企画）

日 時：2012年11月3日（土）10：00～12：00

場 所：西区福祉活動拠点フクシア 多目的研修室

主 催：NPO 法人シャーロックホームズ

参加者：16名

講 師：宮島真希子（みやじま まきこ）

NPO 法人シャーロックホームズ理事、同 横浜コミュニティデザイン・ラボ理事

横浜市在住。2010年に神奈川新聞退社。在職中は記者稼業のほかカナロコというウェブサイト企画運営。退職後すぐに、NPO 法人横浜コミュニティデザイン・ラボ理事に。また同シャーロックホームズ理事を務める。市民の情報発信支援に携わる。小学5年生の母。

はじめに

NPO 法人シャーロックホームズ理事 宮島真希子より挨拶と前回の【地図読みこなし講座】の振り返りがあった。

ワークショップ

講師：NPO 法人シャーロックホームズ理事 宮島真希子

「災害時に正確な情報を得る手段を確保しておくことは、2次災害を防ぐためにも大事です。先週の講座で扱った古地図などで住んでいる所の地形の特徴を知ること、また今日紹介する Twitter などソーシャルメディアを普段から使えるようにしておくことで、災害リスクの軽減につながる情報を入手しやすくなります。」講師の宮島真希子（当法人理事）のレクチャーから講座が始まった。

「2011年東日本大震災で、情報を得る手段として電話やメールなどに代わって活躍したのが twitter でした。都内では携帯がつながりにくい中、多くの帰宅困難者が家族の安否確認や交通機関・周辺情報を twitter で確認したと言われ、当日のツイートは普段の1.8倍、3300万件にも及んだという調査結果があります。一方被災地では携帯中継局そのものが被災したため、携帯は不通に。しかし、情報基地の復旧と共にその威力を発揮したのは twitter でした。安否確認のツイートをはじめ、被災情報・援助・必要とされる応援物資・ルート確保など、様々な情報が正確にまたリアルタイムに伝わり、利用者同士で協力し合う復旧活動にもつながりました。一つの情報をすばやく拡散していく twitter の特徴を活かした事例です。しかし残念ながら、この特徴を逆手に取り、デマやチェーンメールが流れ、情報の錯乱があったのも事実です。」

「Twitter というと、“常につぶやくのが億劫”、“私生活をさらけ出すのは不安”と発信することへの抵抗から敬遠されがちですが、情報の発信ではなく情報収集の手段として活用することをお勧めします。まずは自分の興味・関心事をフォローする（追う）ことから始めてみましょう！自治体や消防など地元のライフラインを発信するアカウントのフォローもおすすめです。目標フォロー数は300。300と言われてもいきなりは難しいので、まず自分が気になる事（＝トピック）を10個程度書き出し、「twpro（ツイプロ）」などのサイトを利用して、それぞれのトピックで検索すると、そのテーマについてつぶやいて

いる人たちが一覧できます。その中でつぶやき内容やプロフィールが気に入った人を何人かフォローしていくとフォロー数を増やすことができますよ。」

続いて参加者自身が書き出すワークを開始。

旅行・音楽・映画・本・・・等など、それぞれの興味や趣味を書き終えたところで、パソコンを使っての実践に移行。Twitter アカウントを持っていない人はアカウント取得、アカウントを持っている人はフォローを増やす作業に取り掛かった。

パソコンを使ってのワーク後、再び宮島講師が登壇。

「Twitter は自分が好きなこと・楽しいこと・面白いことに偏りがちになるので、あえて反対意見の人もフォローに混ぜてみてください。意見が異なっても意外に共感できたりするもので、興味や情報の多様性にもつながり、デマなどに対する判断材料にもなりますよ。」と「バランスのとれた情報収集」をポイントとして挙げた。

ここで質疑応答の時間に。

「Twitter 初心者です。東日本大震災でツイッターが有効だったと聞いてずっと興味を持っていたので始めたいのですが、つぶやくことへの不安があります。注意点など教えてください」との質問には、「まず他の人が言っている意見でいいなと思うものをリツイート（転送）することから気軽に初めてください。必ずしもつぶやかなくてもいいのですよ。また twitter は議論には向かないので、一歩ひいて見るだけにとどめましょう。」とアドバイス。

「つぶやかなくてよい」という言葉は「twitter をしてみよう」という気持ちが芽生えた参加者への後押しとなったようだった。

最後に宮島講師よりまとめのレクチャーがあった。

「津波史研究者の山下文男氏の言葉で「てんでんこ＝てんでばらばらに」という言葉があります。津波の時だけは、『てんでばらばら、親子といえども人を頼りにせず、走れる子どもは一目散で逃げろ、そして一家全滅・共倒れになることを防げ』という三陸地方の知恵です。つまり災害時には、他人の指示を待つことなく、自分自身の判断力と行動で自分の命を守れということです。かたや私たちが生きる世界にも情報があふれています。いわば情報の海の中で波にもまれているようなもので、その中で生き延びるには一人ひとりが考え・判断することが大事。“Sauve qui peut ”とは、フランス語で『生きられる者は生き延びよ』という意味で、船が難破したり、前線が崩壊した時に、船長や指揮官が最後に宣言する言葉。日頃から情報アンテナをはり、非常時に（災害時にしろ、情報の海で遭難した時にしろ）、「てんでんこ」と“Sauve qui peut ”の精神を持って生き延びてほしいのです。」

イザという時を災害時のみならず情報の波の中で生き残らねばならないときにも広げる発想の転換に一同は注目。

「最後になりますが、ソーシャルメディアには限界があり、電波が届かなかつたらそこで情報は途絶えてしまいます。しかしそこで諦めないでほしい。前回の講座で扱った地図などアナログな情報もたくさんあるはず。それらを読みこんで生き延びてください。そして通信網が復活したらつぶやき続けてください。どん底の事態でも先ほどお話した「てんでんこ」あるいは“Sauve qui peut ”の精神で、なんとか状況を変えて、自分の大切な人や仲間へ発信し続けて、自分の命を自分で守ってください。Twitterに限らず、facebook やその他ネット上の情報、または地域のイベントや講座なども利用して、

いくつもの情報チャンネルを持ってください。普段から楽しく使って、知識やネットワークを広げておくことが、非日常時にも生きるのです。」

という言葉でワークショップは締めくくられた。

ワークショップのお土産

参考資料として以下の2点を配布。

① 「災害時でも家族とつながるために-Twitterをはじめませんか」

作成：Q&A株式会社 (<https://www.clubqa.com/main/?p=996>)

② 「携帯電話に防災情報をメール配信します。」

作成：横浜市 消防局危機管理室

男女共同センター横浜北の白藤香織さんより挨拶

男女共同参画センター横浜北 白藤香織さんより、男女共同参画センターの紹介・今回の地域出前について簡単な説明と来年度も募集中であることが伝えられた。

アンケート記入

【補足：アンケート結果】

参加者16名中、14名回答。

満足している（5名）、どちらかといえば満足している（9名）と、参加者全員に満足いただけた。

アンケートより一部抜粋：

☆今日参加される前に期待されたことは何ですか？それは得られましたか？

- ・講師としてのポイントを学習したい⇒得られた
- ・休暇していた Twitter の再開
- ・twitter の使い方に期待⇒はい、ありがとうございます
- ・放り出し状態になっている twitter を「災害時にいかす」という目的を起に、又、始めたいと思っていました⇒やる気ができました
- ・twitter の使い方が知りたかったのですが、登録の段階でつまずいてしまいました。帰宅してからトライします！
- ・twitter の使用方法⇒よく理解できた
- ・ソーシャルメディアをこれまで使用したことがなかったので、満足しました⇒ソーシャルメディアの重要性を確認しました
- ・まだツイッター等不安もあって使えずでしたが、災害時を考えると必要だと思っていた。今回とても丁寧に説明してくださり、不安をとりのぞかれました
- ・ツイッターには登録していますが、使いこなせているのか？疑問でした。いろんな小ワザを教えてくださいだったので、これから使ってみようと思います
- ・facebook、twitter はアカウントをとったものの、個人的使い方にちゅうしょをしていた。非日常時に活用するための背中を押されました

☆今日印象に残ったことは何ですか？

- ・twitter についての、自分に合った使い方

- ・災害時、いきなりソーシャルメディアを使おうとしても無理で、普段から使っていてこそいざという時活用できるということ
- ・Twitterのバランスのとれた使い方がわかってよかった
- ・ツイッターについてでもですが、宮島さんが要所に盛り込んでくださった“メッセージ”、どれも大切に、伝えていけたらと思います。
- ・「非日常は日常が問われる」とは、本当にそのとおり
- ・ふだんから使っていることで、イザというときに役立つ、ということ
- ・個人情報（の流出）とかこわいなあと思っていたが、全て公開しなくても良いと聞いてホッとしました
- ・普段から使い、非日常になる前になれておくこと
- ・Twitterを使うときは、千差万別な選び方をして、反対意見も取り入れる、という点、なるほど！！
- ・自分の身は自分で守る！

☆帰ってから、どんな行動をしようと思いますか？（今日もしくは今後）

- ・“ツイッター”は今日初めてアカウントを作った初心者なので、使いこなせる様に勉強をしたい
- ・まずtwitterプロフィールを更新したいと思います
- ・家族のつながりのためのツイッターアカウント取得
- ・twitterの登録して、いろいろ情報収集して、フォロワーを増やしたいと思います。そしてより良い情報を収集したいと思います。
- ・職場（子育て支援拠点）でセミナーや広報で活かせるようまとめます
- ・先ずはツイッターを始める。苦にならないよう続けていく！
- ・Twitterのアカウントを作ったので、親しもうと思います
- ・twitterを研究。仕事や私生活にポジティブに取り入れたい

☆感想やご意見がありましたら、ご自由にお書きください。（1回目と合わせてでも結構です）

- ・興味はあったけど、機会がなかったという2つ（DIGとtwitter）を一緒に受けられてよかったです。
- ・託児付きの講座でこのように中身のこいものはあまりないような気がしてよかった。もっと託児つきで色々な講座があると個人的にはうれしい。
- ・地図の読み方/活かし方はもう少しつっこんでお話をききたかったです。2回とも「さわり」の部分になっていますが、たくさんの情報がありました。よく思い出して、ポイントを整理します
- ・facebookについても話してほしかった
- ・フォーラム講座で無料受講できてよかった。活用方法、こう利用しているという発表時間もあると多くの使い方が紹介されると思う
- ・宮島さんのお話がわかりやすかったです。事前に子供の保育の事など、又、twitterの事前準備などについてご連絡を何度もいただいたのが、きめ細やかでよかった。

以 上